

## 米国の新型核実験に抗議する決議

米エネルギー省の国家核安全保障局（NNSA）は9月18日、今年4月から6月までの間に1回、強力なX線を生み出す「Zマシン」という装置を使って、核爆発に近い状況をつくり、プルトニウムの反応を確認する新型核実験を実施したことを明らかにした。

この新型核実験は、ニューメキシコ州のサンディア国立研究所で行われ、核実験場や爆薬を必要とせず、核爆発を伴わないという点で未臨界実験と同じであるが、昨年11月に続き、オバマ政権下で5回目になるものである。

オバマ政権は、「核兵器のない世界」の実現を目指すとしながらも、核兵器が存在する間は、その「安全性と信頼性」を確保するために必要だとして、ブッシュ政権から継続して未臨界核実験を行っている。これは、国際社会平和の願いを無視し、核全廃への取り組みを踏みにじるものであり、強い憤りを禁じえない。

よって、東大和市議会は、爆発・非爆発を問わず、米国政府がいつさいの核実験、核開発計画を放棄し、包括的核実験禁止条約の批准を進め、核兵器全面禁止条約の実現のために、ただちに行動を起こすよう強く求めるとともに、世界の恒久平和を願い、非核平和都市宣言をする自治体の市民を代表して、今回の実験に対し強く抗議し、再び実験を行うことのないよう強く求めるものである。

以上、決議する。

（議決日）平成24年9月25日

（送付日）平成24年9月28日

（送付先）米国駐日大使